

富山・願海寺城跡

1 所在地 富山市願海寺

2 調査期間 二〇〇四年(平16)一〇月～十一月

3 発掘機関 富山市教育委員会埋蔵文化財センター

4 調査担当者 土生朗治・戸部孝一

5 遺跡の種類 城館跡・城下町跡

6 遺跡の年代 戦国時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

願海寺城は、富山市西部の射水平野に所在した平城である。天文二二年(一五五二)から天正九年(一五八二)まで存在し、上杉謙信



(富山)

方の武将寺崎民部左衛門盛永が拠った。二〇〇二年の調査では、堀・土橋・井戸を検出し、城郭の曲輪部分を確認している。

今回の調査は、曲輪から北東へ四五〇m地点の城下町域で行ない、方形居館の区画溝や土坑を検出した。

出土遺物には、中世から近世初期までの陶磁器、漆塗碗・皿、下駄、曲物、折敷、箸、木簡、櫛、陽物形、砥石、石臼、埴、鎌、筭、北宋銭などがある。

木簡は、区画溝内から一点出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) ☐[正月カ] ☐[当カ] ☐女 ☐
☐卅日迄見 ☐ (125)×21×1 019

上端は山形で、下端は折損している。樹種はスギである。墨痕は明瞭でなく、期限を定めた内容が読み取れるが、詳細は不明である。なお、釈読にあたっては、加藤達行氏のご教示を得た。

9 関係文献

富山市教育委員会『願海寺城跡発掘調査報告書』(二〇〇五年)

(古川知明)

